

山北町立岸幼稚園

研究テーマ：自然と出会い体験する中で豊かな心を育む

1 実践の目的

子どもたちが自然とふれあうことで得られる経験は、豊かな感性をつちかうことにつながっていく。自然の中で得る学びを大切にして保育を紡いでいくことは重要であると考え、山北の自然を生かして保育を進めていくことを焦点にした。

子どもが自然に親しみ興味を膨らませながら、自然の中で遊ぶ楽しさを感じ、また地域の交流をとおして豊かな心を育みたいと考え、研究主題を「自然と出会い体験する中で豊かな心を育む」とした。

2 実践の内容

(1) 重点テーマについて

重点テーマを「子どもの“やりたい”があふれる環境づくり」と設定した。その中で以下の3点をキーワードとして研究を進めた。

①ワクワク ドキドキ

四季折々の自然体験ができる活動を計画し、自然事象を見逃さずに保育に取り入れることを意識してきた。また、子どもの心が動く瞬間や表現などを見逃さずに捉えることを心がけた。

地域の豊かな物的・人的環境に支えてもらいながら、ワクワクドキドキと心が動く感情体験を積み重ねたことで、子どもの意欲や発信が増えたり、友だち同士の対話も



フィールドワークでの発見

深まったりと、多くの学びに繋がったと感じる。教師は、子どものつぶやきを見逃さず、どのような時に心を動かしているかをみとる力を磨いていきたい。

②共主体

子どもの“やりたい”に目を向け、教師も子どもと一緒に楽しみながら、子ども中心の保育をめざした。子どもの目線に立って一緒に感情体験を味わったことで、言葉や表情など豊かな表現の広がりがみられた。また、教師がモデルとなるよう意識したことで、子ども同士で伝え合う場面が増えていった。

子どもと教師の主体がバランスよく共存できるように、職員間で育ちを共有し、連携しながら保育を行うことを意識したが、少人数保育だからこそ教師の発言や行動の影響も大きく、難しさや課題も感じた。

子どもの発信・アイデアからの遊びを大切にしたい。1日の振り返りを充実させ、自分の気持ちを話し合う保育を今後も考えていきたい。



子どもと同じ目線で、子どもの感動に共感



1日の振り返りを充実させ、自分の気持ちを話し合う

③ICT の活用

写真や動画、ドキュメンテーションをつかって保護者や地域に発信してきた。保育では、映画館を作り遊びの様子や動画を流し、遊びのイメージを広げるきっかけにもなった。また、保育のふりかえり時に写真を使って共有したことで、子ども自身が客観的に自分を捉える機会になったり、友だちに目を向けるきっかけにもなったりした。

今後も活用方法を模索し、仕事の効率化もめざしていきたい。

(2) 0歳から15歳までの一貫教育・保育

昨年度までの交流や取り組みを生かした活動の継続と、実際に交流をしていない職員も自分事として捉えて共有できるように、全職員が意識をもって進めていくことをめざして取り組んできた。

互いの教育の特性や目的を知るためには、実際に見て・感じて・かかわって・対話するからこそ子どもも教師も学びが深まり、交流が充実すると改めて感じた。



中学校の美術・音楽の先生が来園し一緒に活動を楽しんだ

3 実践の成果と課題

・豊かな山北の人的環境・物的環境のおかげで、子どもたちの心が動く自然体験はより深まっていると改めて感じた。

・子どもが何に興味をもち、どのようなときに心を動かしているのかを“みとり”、“教師の感じる心”が大切である。

・縦と横の繋がりによって、感情体験が充実した。

4 今後の展開

・子どもの意欲や主体性を伸ばすための教師の援助と見守りのバランスを考える。

・子どもが十分に心を満たせる時間を保証するためにも、行事や保育の見直しや目的をより共有して視点を定めていく。

・子どもの実態に合わせながら、岸幼稚園の強みを継続していく。